

## ＜日商簿記 2 級工業簿記ミニテスト 14＞標準原価計算 1

＜問題＞

当社の CMC 工場では製品 A を製造し、標準原価計算制度を採用している。次の資料に基づいて、次の間に答えなさい（? 部分は各自推算のこと）。

### 1. 製品 A1 個あたりの原価標準

直接材料費	@240 円×3kg=720 円
直接労務費	@400 円×3 時間=1,200 円
製造間接費	@600 円×? 時間 = ? 円

※製造間接費は直接作業時間を配賦基準としており、年間正常直接作業時間は? 時間、年間予算額は 16,668,000 円（うち変動費予算額は月間平均 509,300 円）である。なお、固定製造間接費は予算と実際額は同額であった。

### 2. 生産データ

	製品 A	
月初仕掛品	50	(50%)
当月投入	710	
合計	760	
月末仕掛品	60	(50%)
完成品	700	

（ ）内の数値は加工進捗度を示す。材料はすべて工程の始点で投入されている。

### 3. 当月の実際原価データ

直接材料費       : @250×2,150kg=537,500 円  
 直接労務費       : @390×2,265 時間=883,350 円  
 変動製造間接費: 528,300 円

問

差異分析（能率差異は変動費と固定費からなるものとする）を行い、結果を解答欄に記入しなさい。

（借方差異には△をつけること）

＜解答＞

総差異	△202,650 円
直接材料費（価格差異）	△21,500 円
直接材料費（数量差異）	△4,800 円
直接労務費（賃率差異）	+22,650 円
直接労務費（時間差異）	△60,000 円
製造間接費（予算差異）	△30,000 円
製造間接費（能率差異）	△90,000 円
製造間接費（不働能力差異）	△19,000 円